

問1 663年に朝鮮半島で行われた白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、その後、国外からの侵攻の脅威にさらされることとなりました。この危機に対応するために行われた、日本で最初となる全国的な戸籍の作成や中央集権化の目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2026年 埼玉県公立入試 類似）

1. 兵役や租税を確実に課することで軍事力を高め、国家の防衛体制を強固にするため
2. 聖徳太子が定めた十七条の憲法に基づき、仏教を中心とした平和な国づくりを行うため
3. 蘇我氏などの有力豪族を武力で打倒し、天皇が直接政治を行う仕組みを作るため
4. 難波宮に都を移すことで大陸との交易を活発にし、国の経済を豊かにするため

問2 7世紀後半、日本が白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州北部の防衛を強化するために大宰府の北西に築かれた、全長約1.2kmに及ぶ巨大な土塁と堤防からなる防衛施設を何といいますか。（2024年 北海道公立入試 類似）

1. 水城
2. 多賀城
3. 大仙古墳
4. 壇ノ浦

問3 飛鳥時代に聖徳太子（厩戸王）が制定したとされる、政治を行う役人（官吏）の心得や道徳を示した法規を何といいますか。（2026年 宮崎県公立入試 類似）

1. 公家諸法度
2. 御成敗式目
3. 十七条の憲法
4. 大宝律令

問4 中大兄皇子とともに政治改革を主導し、後にその功績を称えられて「藤原」という姓を授かり、平安時代の摂関政治へとつながる一族の祖となった人物は誰ですか。（2017年 和歌山県公立入試 類似）

1. 小野妹子
2. 北条時政
3. 聖徳太子
4. 中臣鎌足

問5 日本の歴史において、古代の律令国家の形成期と、近代の明治維新期の両方で共通して見られた「中央集権体制」の構築に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 福井県公立入試 類似）

1. 武士や貴族が土地を世襲的に支配する権利を強化し、身分制度に基づく統治を徹底した。
2. それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。
3. 地方の有力者が所有する私有地を認め、その土地の管理を各地域に任せることで国家の安定を図った。
4. 権限を地方の役所に分散させることで、地域の事情に合わせた柔軟な政治運営を行おうとした。

問6 聖徳太子が推古天皇の摂政として行った政治改革の一つで、家柄にとらわれず、個人の才能や功績に応じて位を与え、役人に取り立てる制度の名称は何か。（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 公地公民
2. 班田収授法
3. 十七条の憲法
4. 冠位十二階

問7 壬申の乱という大規模な内乱を経て、大海人皇子（天武天皇）が自らの権威を背景に構築を目指した、法に基づく国家体制を何と呼びますか。（2025年 愛知県公立入試 類似）

1. 摂関政治
2. 封建国家
3. 幕藩体制
4. 律令国家

問8 663年に朝鮮半島で行われた「白村江の戦い」において、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗れた後の出来事として、歴史的背景に合致する説明はどれですか。（2017年 沖縄県公立入試 類似）

1. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子が政治の表舞台から退き、大王による豪族連合政治が復活した
2. 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した
3. 大陸の影響を拒絶するため、唐唐使の派遣を完全に停止し、国風文化を育てる政策に転換した
4. 天皇中心の政治を諦め、有力豪族である蘇我氏に全ての政治権力を委ねる体制を整えた

問9 聖徳太子が行った政治改革のうち、「詔（天皇の命令）を受けては必ず謹め」といった記述が含まれ、仏教を敬うことや官吏（役人）が守るべき道徳を示したものはどれですか。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 冠位十二階
2. 大宝律令
3. 十七条の憲法
4. 五箇条の御誓文

問10 7世紀後半、朝鮮半島での「白村江の戦い」に敗れた倭（日本）の政権が、唐や新羅の侵攻に備えて九州の大宰府付近に設置した、巨大な土塁と水を満たした堀からなる防衛施設の名称を選びなさい。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

1. 防塁
2. 防人
3. 水城
4. 環濠

問11 飛鳥時代、仏教の受容に積極的であった蘇我馬子が、大陸から招いた技師の指導を受けて建立した、日本で最初の本格的な寺院を何といいますか。（2025年 東京都公立入試 類似）

1. 法隆寺
2. 飛鳥寺
3. 四天王寺
4. 東大寺

問12 日本の古代における国防政策について述べた次の文のうち、当時の国際情勢に基づいた建設の背景・目的として、最も適切な説明はどれですか。なお、この時期には朝鮮半島に近い北九州から大宰府周辺、さらには瀬戸内海沿岸にかけて、山城や水城といった施設が集中して建設されていました。（2019年 島根県公立入試 類似）

1. 新羅と結んで高句麗を滅ぼした後、大陸へのさらなる領土拡大を狙うため
2. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅による日本本土への報復や侵攻に備えるため
3. 壬申の乱における軍事的な混乱を収束させ、中央集権体制を確立するため
4. 磐井の乱などの国内の反乱を抑え込み、九州地方の豪族を支配下に置くため

問13 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島の西南部に位置する地域へ大規模な軍隊を派遣し、唐・新羅の連合軍と衝突しました。この戦いが起こった直接的な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

1. 九州北部を襲撃した刀伊と呼ばれる集団の正体を突き止めるため
2. 新羅と軍事同盟を結び、半島北部の高句麗を制圧するため
3. 博多に侵攻してきた元の軍隊を、朝鮮半島の拠点で迎え撃つため
4. 友好関係にあり、当時滅亡していた百済の復興を支援するため

問14 飛鳥時代において、家柄にとらわれず個人の才能や功績がある者を役人として登用するために、冠の色によって位の高さを示した制度を何といいますか。（2020年 京都府公立入試 類似）

1. 万葉集の編纂
2. 墾田永年私財法
3. 冠位十二階
4. 枕草子の執筆

答え合わせ・解説

|     |                                                         |                                                                                                                                                                                                   |
|-----|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 1<br>兵役や租税を確実に課すことで軍事力を高め、国家の防衛体制を強固にするため            | 白村江の戦いでの敗北は、当時の日本にとって唐や新羅が日本列島へ侵攻してくるかもしれないという深刻な危機を意味していました。天智天皇は、国防を強化するために「庚午年籍」という日本初の全国的な戸籍を作成し、人民を直接把握することで、兵士の徴集や軍事費となる租税の徴収を確実に行える体制を整えました。これが中央集権国家の形成へとつながる重要な一歩となりました。                 |
| 問2  | 答え 1<br>水城                                              | 663年の白村江の戦いで大敗した倭（日本）は、唐や新羅が日本列島へ侵攻してくることを強く警戒しました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の外交・軍事の拠点であった大宰府を保護するため、福岡平野の最も狭まった場所に巨大な土塁を築き、その外側に水を貯えた「水城」を建設して防衛線を整えました。                                              |
| 問3  | 答え 3<br>十七条の憲法                                          | 聖徳太子が定めた官吏の心得は十七条の憲法です。和の精神や仏教の尊重、天皇の命令に従うことなどが示されています。大宝律令は飛鳥時代後半に制定された本格的な律令であり、御成敗式目は鎌倉時代に武士のために作られた法規となります。                                                                                   |
| 問4  | 答え 4<br>中臣鎌足                                            | 中臣鎌足は、中大兄皇子の知恵袋として蘇我氏打倒の計画から改革の実行まで重要な役割を果たしました。死の間際に、これまでの功績によって「藤原」の姓を贈られ、その子孫である藤原氏は後の日本政治において大きな影響力を持つこととなります。                                                                                |
| 問5  | 答え 2<br>それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。 | 律令国家における「公地公民」の原則と、明治新政府による「版籍奉還」や「廃藩置県」は、どちらも土地と人民の支配権を中央へ集中させることを目的とした政策です。古代では豪族、近代では大名という、それまでの地方支配者の権利を否定し、中央政府が直接的に国民を統治し、税を徴収する仕組み（中央集権体制）を整えようとした点が共通しています。                               |
| 問6  | 答え 4<br>冠位十二階                                           | 才能や功績に応じて冠の色で位を分けた制度は冠位十二階である。これにより、従来の氏姓制度にとらわれず有能な人物が登用される道が開かれた。十七条の憲法は「和を以て貴しとなす」など役人の心構えを示したものである。                                                                                           |
| 問7  | 答え 4<br>律令国家                                            | 天武天皇は、内乱を勝ち抜いたことで得た強大な権力を用い、官僚組織の整備や戸籍の作成、法典（律令）の編纂などを進めました。このように、天皇を頂点として法によって全国を統治する仕組みを律令国家と呼びます。この流れは、次の持統天皇や大宝律令の完成へと引き継がれていきました。                                                            |
| 問8  | 答え 2<br>唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した        | 白村江の戦いでの敗北は日本にとって大きな危機であり、中大兄皇子（後の天智天皇）は九州の大宰府周辺に防御用の堤防である水城や朝鮮式山城を築きました。この国防の必要性が、国家の権限を中央に集中させる律令制整備の大きな要因となりました。                                                                               |
| 問9  | 答え 3<br>十七条の憲法                                          | 604年に制定された十七条の憲法は、日本最初の成文法としての性格を持ちますが、現代の法律とは異なり、役人が政治を行う上での「心得」を説いたものです。同じく聖徳太子の政策である冠位十二階は「個人の才能を評価する制度」であり、この憲法とあわせて天皇中心の政治を支える基盤となりました。                                                      |
| 問10 | 答え 3<br>水城                                              | 663年の白村江の戦いで、倭・百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に大敗したことを受け、当時の政権は日本への侵攻を強く警戒しました。その防衛策として、九州の政治・外交の拠点であった大宰府を保護するために、現在の福岡県太宰府市周辺に「水城」と呼ばれる全長約1.2kmにも及ぶ大規模な土壁と堀を築きました。あわせて、北九州の沿岸には「防人」と呼ばれる兵士を配置し、警戒を強めました。        |
| 問11 | 答え 2<br>飛鳥寺                                             | 崇仏論争で物部氏に勝利した蘇我氏が、その権勢を示すとともに仏教を広める拠点として建立しました。それまでの日本の建物にはなかった屋根瓦の使用や、五重塔・金堂といった伽藍配置など、大陸の最新技術が初めて体系的に取り入れられた歴史的建造物です。                                                                           |
| 問12 | 答え 2<br>白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅による日本本土への報復や侵攻に備えるため            | 663年の白村江の戦いにおいて、日本は百済復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北しました。これにより、勝利した唐や新羅が日本へ攻め込んでくる可能性が高まったため、当時の政権は国家の存亡をかけて国防を強化しました。北九州から大宰府にかけて防衛施設が集中しているのは、そこが地理的に大陸から最も近く、侵攻ルートになることが予想されたためです。                       |
| 問13 | 答え 4<br>友好関係にあり、当時滅亡していた百済の復興を支援するため                    | 飛鳥時代の663年、日本は友好国であった百済の復興を助けるために大軍を派遣しましたが、唐・新羅の連合軍に白村江の戦いで大敗しました。この敗北を受け、日本は唐・新羅による本土侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築いたり、各地に朝鮮式山城を作ったりして防衛体制を急いで整えることとなりました。選択肢にある「元」や「刀伊」は、それぞれ鎌倉時代や平安時代の中期の出来事であり、時代背景が異なります。 |
| 問14 | 答え 3<br>冠位十二階                                           | 聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政を務めていた時期に制定されました。それまでの「氏姓制度」のように家柄で地位が決まる仕組みを改め、能力のある人材を確保することで、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整える狙いがありました。                                                                                  |